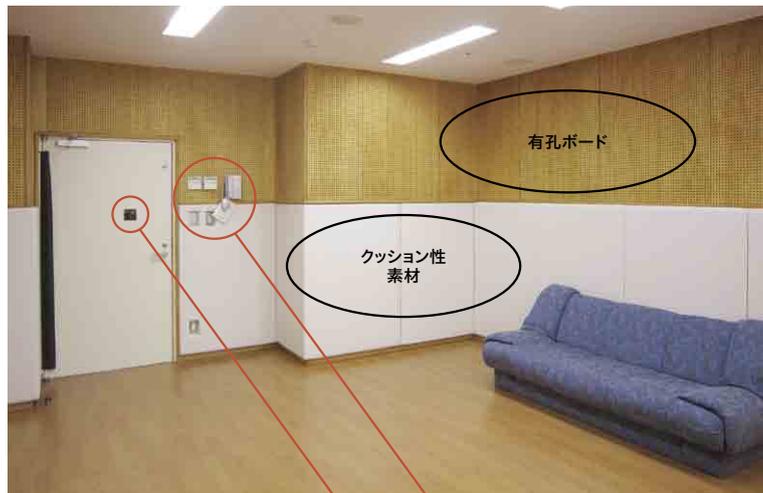


外部からの刺激等に配慮した 落ち着きを取り戻すための小空間

東京都
東京都立久我山青光学園



① 普通教室に近接する場所に各階一箇所、落ち着きを取り戻すための小空間として、休憩スペースが設置されている。



② 壁は吸音効果のある有孔ボードと、衝撃を吸収するためのクッション性素材が使用され、安全性と音への配慮が施されている。



③ ドアの開閉時に児童生徒が隙間に指を挟まないよう、隙間にはラバーが装着されている。



④ 室内には調節可能な冷暖房を完備している。連絡用インターフォンも設置されている。



⑤ 中の様子が外から確認できるよう、ドアには小窓が設けられている。



■ 東京都立久我山青光学園は、視覚障害教育部門と知的障害教育部門を併置する特別支援学校である。

■ 知的障害教育部門では、1階から3階までの普通教室に近接する場所に各階一箇所、児童生徒が落ち着きを取り戻すための小空間として、休憩スペースが設置されている。休憩スペースは、外部との交わりや音を一時的に遮断するため、独立した部屋として設置されている(①)。

■ 休憩スペースは、安全性や外部からの刺激等に配慮した様々な工夫が施されている。出入口のドアは、室内の遮音性を高めるため開き戸になっている。このため、ドアの開閉時に児童生徒が隙間に指を挟まないよう、指挟み防止のラバーが装着されている(③)。

■ 壁面には、室内の音の反響を軽減する吸音効果と、音の振動が外部に伝わるのを防ぐ効果のある有孔ボードが使用されている。また、児童生徒が怪我をしないよう、壁の下部は衝撃を吸収するクッション性素材で覆われている(②)。

■ ドアには、児童生徒が室内において一人で過ごす際、教員等が中の様子を外から確認できるように小窓が設けられている(⑤)。冷暖房が完備された室内には、職員室との連絡用のインターフォンも設置されている(④)。